

第34回 かにっこ語りの会



▲緩急をつけた語りや生き生きとしたイラストが印象的な紙芝居

袋原地域の歴史や言い伝え等を掘り起こし、語り伝えていきます。代表の大原尚子さんは「名取川が暮らしや地形に与えた影響、これは活動に欠かせないテーマの一つです。それと落合観音堂と観音様に関すること、地域に残る昔話の継承も活動の柱で

「四郎丸」と「かに」、この二つに深い関係があるのをご存じですか。その昔、名取川が氾濫し、落合観音堂の観音様が流されそうになったときに無数のかにかが現れて観音様を守ったという「かに伝説」に由来しているそう。私も話を伺って初めて知りました。「かにっこ語りの会」の皆さんは、太白区四郎丸・

歴史を掘り起こし、伝える

東中田市民センターを訪問し、地域の歴史や文化などを調べ、語り継ぐ活動を行う「かにっこ語りの会」の皆さんにお話を伺いました。

古今東西 ぐんぐん 行きます! 郡市長がさまざまな現場を訪問し市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

皆さんは地域の方に話を聞きに行くなど、調査活動にも力をいれています。鈴木幸子さんは「一つのこと付随して、関連することも調べるといいうように展開していくのが楽しい」と話します。渡邊恵美子さんも「暴れ川の名取川は氾濫して大変だけど、上流から栄養分のある土壌を運んでくれるおかげ

学ぶ楽しみを心の豊かさ

「まちづくり活動賞」を受賞されました。が評価され、かにっこ語りの会は5月に太白区まちづくり推進協議会による「まちづくり活動賞」を受賞されました。

「子どもたちにお話すると親御さんにも伝わって、大人も興味を持っていただけます。多くの人に広がっていくことがうれしい」と吉田きみ子さん。こうした長年にわたる活動が評価され、かにっこ語りの会は5月に太白区まちづくり推進協議会による「まちづくり活動賞」を受賞されました。

「2度ほど中学生の皆さんと交流の機会があり、おしゃべりしながら絵を考えました。若い感性で美しい観音様に仕上がってます」と大原さん。中学生と協働で作られた紙芝居は、毎年四郎丸小学校の授業で披露されています。「子どもたちにお話すると親御さんにも伝わって、大人も興味を持っていただけます。多くの人に広がっていくことがうれしい」と吉田きみ子さん。こうした長年にわたる活動が評価され、かにっこ語りの会は5月に太白区まちづくり推進協議会による「まちづくり活動賞」を受賞されました。



▲紙芝居「四郎丸とかにの観音様」の表紙

良い大根やゴボウなどが採れることもこの会で知りました」と続けます。会では、まち歩きガイドや市民センターでの講座なども行っています。参加者から「詳しく教えてくれてありがとう」など感謝の言葉が伝えられることも。「私もこの会に参加して、長年住んでいても知らなかったことが学べて良かったと思います。引越してきた方にも紙芝居や講座などを通して伝えていきたい」と今野美枝子さん。「ここで学べるのは幸せなこと。体力の限り続けていけたら」との大原さんの言葉に皆さんは笑顔で頷いていました。

地域の個性を輝かせる

2月にリニューアルした市民センターの外観にも、かにの足をモチーフにしたデザインが施され、いかに地域の皆さんに親しまれているのかを実感しました。地域の歴史をひもとき、そこにある物語を地域の個性や魅力として、まちづくりに生かす。この活動がご自身の学びだけでなく、地域の皆さんに語り伝えられることで、自分の住むまちを大切に思う気持ちや育まれ、地域活性化にもつながっているのだと感じました。新作の紙芝居「平の献上ごんぼ」も楽しみですね。

2月にリニューアルした市民センターの外観にも、かにの足をモチーフにしたデザインが施され、いかに地域の皆さんに親しまれているのかを実感しました。地域の歴史をひもとき、そこにある物語を地域の個性や魅力として、まちづくりに生かす。この活動がご自身の学びだけでなく、地域の皆さんに語り伝えられることで、自分の住むまちを大切に思う気持ちや育まれ、地域活性化にもつながっているのだと感じました。新作の紙芝居「平の献上ごんぼ」も楽しみですね。



▲左から鈴木さん、吉田さん、大原さん、市長、渡邊さん、今野さん